



呉高専インターアクトクラブ



呉中央コスモス園（老人ホーム）で
車いす清掃をしました

呉高専インターアクトクラブは、呉東ロータリークラブのご支援の下、地域社会への奉仕と国際理解を目標に活動を行なっているクラブで、1～3年生までが所属します。

も く じ

しなやかで美しいジャンプを 2008年度ノーベル賞受賞者講演会 科学という宇宙ーノーベル賞受賞者と語るー (校長 遠藤一太) … 1	退職にあたって 退職にあたって 定年退職にあたって 大変楽しかった呉高専での生活 卒業を前に思うこと 卒業に向けて 楽しかった5年間 5年間ふりかえって 入学してから7年・・・ 7年間を過ごして 灰ヶ峰に登ってみて 灰ヶ峰遠足ー各班の感想ー 灰ヶ峰登山 灰ヶ峰登山 「宮島、僕と水族館と時々シカ」～僕とブーツの一日戦争～ (人文社会系分野 川尻武信) …13 (機械工学分野 河野正来) …14 (電気情報工学分野 野村博昭) …14 (建築学分野 寺岡 勝) …15 (機械工学科 河本真紀子) …15 (電気情報工学科 池端秀治) …16 (環境都市工学科5年 村上隆則) …16 (建築学科 岡田衣梨子) …17 (機械電気工学専攻 川口哲史) …17 (建設工学専攻 岡本有希加) …18 (機械工学科1年 堀 雄貴) …18 (電気情報工学科1年) …19 (環境都市工学科1年 児島凌太) …19 (建築学科1年 伊達千尋) …20 (機械工学科2年 尾越 匠) …20 (電気情報工学科2学年 川元洋介) …21 (環境都市工学科2年 延廣耕作) …21 (建築学科2年 桑田千愛) …22 (機械工学科3年 新 孟大) …22 (機械工学科3年 平井勇大) …23
第7回呉高専文化行事 全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト (呉高専学生会会長 本計貴紀) … 1 (学生主事補 外村 彰) … 2	野呂山と霞と私たちへステップキャンパス最終日にて～ (環境都市工学科3年 伊藤雄貴) …23 (建築学科3年 池本倫也) …24 (機械工学科4年 下重達矢) …24 (電気情報工学科4年 松島圭吾) …25 (環境都市工学科4年 太田悠紀) …25
デザコン2011 in 北海道 高専ロボコン2011 中国大会 (ロボット製作クラブ顧問 山田祐土, 野村高広, 高津康幸) … 4	第22回プログラミングコンテスト in 舞鶴 (電気情報工学分野 藤井敏則) … 4
2011年度の建築学科の活動を振り返って (建築学科教育主任 篠部 裕) … 5	平成23年度キャリア開発セミナー 各種展示会における研究シーズ公開(協働研究センター長 黒木太司) … 6
呉・芸南学「フィールドワーク成果報告会」 (建築学分野 佐々木伸子) … 7	エジソン・スクール第8回 電気を「組み合わせて使う」ロボット(ラインレーサー)の製作 (電気情報工学分野 横沼実雄) … 7
寮生活について 「先輩」という立場 嶺 陽 寮 の 近 況ー寮棟割当再編および第5寮改修ー (寮務主事補 仁保 裕) … 9	トムス工科大学の学生との交流 ホームステイ体験談 中国地区高専連携国際交流活性化プロジェクト “International Student Conference in Dalian” (電気情報工学分野 黒木太司) …10
専攻科生日韓合同マイクロ波国際会議で講演 (電気情報工学分野 黒木太司) …11	私の剣道部体験談 “絆”としての里親会 ニュージーランドでの語学研修 大連大学を訪ねてー次世代を見据える窓口(国際交流室長 竹内準一) …13
	特別見学旅行：グアム体験記 研修旅行 感想 台湾研修旅行 特別見学旅行(東京) (建築学科4年 堀本貴典 岡田雅志 胡子和輝 中島雅貴) …26 (学生主事補 佐賀野健) …26 (高専祭実行委員長 黒岩真平) …27 (学生主事補 佐賀野健) …27 (学生相談室長 岩城裕之) …28 (呉高専同窓会長 島田裕己) …29
	第47回高専祭を終えて 校内駅伝大会 学生相談室の「意味」 同窓会の現状 第45回全国高等専門学校体育大会 他 (成績) …29

しなやかで美しいジャンプを

校長 遠藤 一太



昨年から今年にかけて、校地の大工事を行い、地盤沈下で壊れていた排水管の修理が完了しました。これで雨のたびに困っていた水溜り問題も解消です。また、校内の歩道と車道を分離し、気持ち良く歩けるようになりました。今後、痛んだ校門やフェンスを改修し、再来年の創立 50 周年は美しいキャンパスで祝いたいものです。

本校の設置者が国から独立行政法人国立高等専門学校機構に移ったのは平成 16 年です。この年は本校の創立 45 周年にあたります。それ以来、5 年ごとに目標を定めて改革に取り組んできました。学生諸君は、毎年何かが変わってきていることに気づくでしょう。例えば、企業の人との交流が増えたこと、外国に行く機会が増えていることなど。また、世界の持続発展に貢献する技術者教育やキャリア教育に関する取り組みを強化しつつあることも感じているでしょうか。

平成 16 年度に踏み切り板から第一歩のホップを踏み出して体制整備を行い、平成 21 年度からの 5 年間で飛躍準備のステップを、そして、50 周年の年からの 5 年間で大きなジャンプを成し遂げようという計画です。

学生諸君の卒業 20 年後には日本の人口は大幅に減っており、また、資源、エネルギー、食料、環境などの全地球的問題の解決が極めて重要になっているはずですが、想定外の状況では、経験的に身につけた知恵を科学的な基本原理に照らし合わせつつ自ら判断せねばなりません。

呉高専では、卒業する若者達が、しなやかで魅力的な技術者として世界に飛躍することを願っています。そのため、専門分野を越えた交流と国際化を重視したカリキュラムを本格的に導入していく予定です。

なお、私は本年 3 月をもって任期満了により校長を退任します。呉高専の益々の発展をお祈りいたします。



2008 年度ノーベル賞受賞者講演会

科学という宇宙

—ノーベル賞受賞者と語る—

呉高専学生会会長 本計 貴紀

平成 24 年 1 月 22 日（日）呉市広公民館ホールにて、ノーベル物理学賞を受賞された名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構の益川敏英機構長と、高エネルギー加速器研究機構の高崎史彦理事のお二人をお招きして講演会を開催しました。

この講演会は、呉市立呉高校生徒会、呉市立阿賀中学校生徒会、呉高専学生会が協力し、講演会の企画や当日の運営などを行いました。学生会の役員が、様々な作業を休日を返上して手伝ってくれたおかげで無事講演会を迎えることができました。

当日は、約 450 人の方にご来場いただきました。広本学生会副会長の進行で、講演会は円滑に進められ、高崎理事より宇宙創成の謎について、益川機構長より科学について分かりやすく話していただきました。質疑応答でも多くの来場者の方が手を挙げられていたことから、多くの方が両氏の話に熱心に聞いておられたことがうかがえます。

大盛況のまま講演会を終え、帰られる来場者の方をお見送りした際に、「ありがとう」と言っていたいた時は嬉しい反面、「もう終わってしまうのか」と寂しくもありました。

今回の経験は、これから社会に出ていく我々、役員にとって良い経験になったのではないかと思います。

最後に、本講演会の運営にご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。



第7回呉高専文化行事

学生主事補 外村 彰

去る12月6日(火)の午後、呉市文化ホールにて呉高専文化行事「水木一郎&谷本貴義アニソン・コンサート」が開催されました。出演は、アニメソング界の重鎮「アニキ」こと水木一郎さん、それに若手系のアニソン歌手・谷本貴義さん、うちやえゆかさんです。



まず登場したのは、呉高専の先輩でもある谷本さん。「DRAGON SOUL」「獣拳戦隊ゲキレンジャー」等の、学生たちが馴染んできたアップテンポな曲で、会場を大いに盛り上げます。

次のうちやえさんは「ふたりはプリキュア スプラッシュ☆スター」など、女の子好みのメロディをかわいく歌って、男子学生のさかんな歓声を受けていました。続く2人のトークでは、彼女が「アート引越センター」のCMソングを歌唱し、かなりの声援をもらっていました。

さて水木さんの登場です。TVでもよく観る赤いブレザー姿で「マジンガーZ」「キャプテンハーロック」その他を熱唱されたアニキの雄姿はとて神々しかったです。学生たちの父親世代にあたる私にすれば、子どもの頃から親しんできた歌が多く、生涯忘れ難いひとときになりました。

アンコールに応じて再登場した3人に、学生会会長・本計貴紀くん、副会長・広本健悟くん、会計委員長・小迫智絵さんが記念の花束贈呈を行い、最後は全員で「マジンガーZ」とメドレー曲「懐かしくってヒーロー」を歌って、2時間にわたる熱いコンサートは無事、幕を閉じたのです。

最後となりましたが、いろいろとご協力下さった皆様方、どうもありがとうございました。



全国高等専門学校 英語プレゼンテーションコンテスト

人文社会系分野 竹山 友子

1月28、29日の両日、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第5回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(プレコン)が開催されました。28日にスピーチの部、29日にプレゼンテーションの部があり、スピーチの部に建築学科5年の石本真帆さんが出場しました。スピーチの部は各地区の弁論大会優勝者および準優勝者に出場権が与えられます。石本さんは昨年11月に行われた第27回中国地区高専英語弁論大会で優勝し、今回の全国大会出場を果たしました。

初日は開会式後にスピーチの部が始まり、石本さんがトップバッターで出場。タイトルは“What Are You Going to Wear Tomorrow?”で、ファッションと個性の関係について欧米と日本の違いなどの考察を絡めたスピーチを行いました。多少緊張していたものの、ミスなく堂々としたスピーチでした。その後、各地区代表の15人が各自7分のスピーチを行いました。さすがに地区予選を勝ち抜いただけあって、みな流暢なスピーチでした。



スピーチを披露する石本さん

翌日のプレゼンテーションの部終了後に閉会式が行われ、審査員の講評そして結果発表。残念ながら石本さんは入賞には至りませんでした。彼女のスピーチは審査員の先生方の印象に残ったようです。審査員のコメントからは英語のリズムやアクセント、スピーチの内容や構成について大変好意的な意見が書かれていました。入賞せずとも、卒業研究で忙しい中でも練習を怠らず、一杯やり遂げた頑張りに教員からトロフィーをあげたい気持ちです。この経験は、4月からの石本さんの社会人生活にきっと活かされることと思います。

デザコン 2011 in 北海道

建築学分野 光井 周平

毎年恒例の全国高等専門学校デザインコンペティション（通称：デザコン）が2011年11月12日から13日の期間で北海道釧路市にて開催されました。デザコンは今回で8回目を迎える全国の高専生を対象とした大会で「環境デザイン」、「空間デザイン」、「構造デザイン」、「ものづくり」の4部門に分かれて競技が行われます。釧路での本選には、環境、空間、ものづくりの3部門は全国予選を勝ち抜いたチームが、構造部門は学内予選で選ばれた各校2チーム以内が参加できます。本校からは昨年度に引き続き4部門に合計12名の学生が出場しました。

その結果、今年度は3部門で入賞を果たしました。今回は惜しくも入賞できなかったチームも2日間健闘しました。入賞者は以下の通りです。

【環境デザイン部門】 審査員特別賞

泉本裕大、福原由佳、臼井敦美

【空間デザイン部門】 優秀賞（2位）

福原由佳、泉本裕大、臼井敦美

【ものづくり部門】 優秀賞（2位）

臼井敦美、泉本裕大、福原由佳、小林香菜

今年度は同じ建築学科5年生のチームが3部門で予選通過し、そのすべてで入賞するという快挙でした。入賞した4名は後日中国新聞の取材を受け、その様子は12月18日付の朝刊に掲載されました。

以下、各部門の概要を紹介します。

○環境デザイン部門

課題：地場産材を用いたセルフビルドハウス

今回は提案した作品の模型を製作し屋外で温度、熱、光などの性能を実際に計測して評価するという難しい課題でした。入賞作品「練家～瀬戸内にたてるセルフビルドハウス～」は、瀬戸内海の島々で伝統的に用いられる練塀と自分で建てられるログハウスを組み合わせた“練家”で週末を過ごそう、というライフスタイルを提案した作品です。

○構造デザイン部門

課題：片持ち構造物の強度コンテスト

8mm×8mm以内のヒノキの棒と接着剤のみを使って橋を製作し、その強さやデザインを競う構造デザイン部門。呉高専からは建築学科4年生の2チームが参加しました。結果は参加した全53チーム中28位と30位でした。上位のチームは最大荷重である173kgを載せても壊れない橋がたくさんありました。来年度は入賞を目指しましょう！

○空間デザイン部門

課題：地域にひらかれたサテライトキャンパス

高専と地域とを結びつけるためのサテライトキャンパスの提案が課題で、入賞した「島・こらぼ～過疎の島と高専生～」は、瀬戸内の島々に設けられたサテライトキャンパスで高専生が島の住民と交流する場をつくるという提案でした。サテライトキャンパスを教室としてだけではなく若者と高齢者の交流施設としても利用しようという意欲的な案です。

○ものづくり部門

課題：紙で作る楽器

みんなで楽しく演奏できる紙でできた楽器を提案するものづくり部門の本選には予選を通過した16チームが参加、呉高専からは5年生のチームと3年生のチームが出場し、5年生の「Tongue Box」が優秀賞を獲得しました。残念ながら入賞に至らなかった3年生の作品も一般の来場者には大変好評でした。次回の活躍を期待しています！

来年度は栃木県で開催される予定です。たくさんの学生の参加を待っています！！



高専ロボコン 2011 中国地区大会

ロボット製作クラブ顧問 山田 祐士
野村 高広
高津 康幸



10月16日(日)に山口県宇部市の俵田翁記念体育館において「高専ロボコン中国大会」が開催され、中国8高専16チームが熱戦を繰り広げました。

今年の競技課題「ロボ・ボウル」は、アメリカンフットボールから生まれた、ロボットと人間がともに戦うまったく新しいゲームでした。テーマこそ「スポーツ」ですが人とロボットが協調動作により競技を行うという次世代のロボットを意識した課題になります。次世代型のロボットといえば現在社会では医療現場や家庭などで介護を行う介護ロボット工場や街中で人と働くロボット等が開発されていますが克服すべき課題も多く実用化に至っていないのが現状ではないかと思えます。このように考えると今回の競技はなかなか難しい課題でありましたが、比較的完成度の高いロボットの製作ができたというだけでなく新しい視点でロボットの開発ができたことで部員たちは大変良い経験ができたと思えます。

また、今回は対戦型の競技であったため相手のロボットを押しつけて前に進んだりフェイントをかけて相手を出し抜いたり競技スポーツでは当たり前のことがロボットにも要求されました。過去の対戦型の競技で呉高専は良い成績を残せていませんでしたので高性能なロボットを完成させて今大会に挑んだのですが、Aチームが1回戦敗退、Bチームは2回戦で敗退するという残念な結果に終わりました。しかし部員たちは今大会の反省を踏まえ大会終了後すぐに校内で行う対戦型の競技会を企

画しています。休みなく活動を続ける部員たちに今後ともご声援をよろしくお願い致します。

第22回プログラミングコンテスト in 舞鶴

電気情報工学分野 藤井 敏則

第22回全国高等専門学校プログラミングコンテストが平成23年12月22日～12月23日に舞鶴高専が主管で開催されました。課題部門20校、自由部門20校、競技部門60校が参加し、さらにベトナムのハノイ大学、中国の成都東軟学院、モンゴル科学技術大学、タイのキングモンクット工科大学の4チームが参加して盛大に執り行われました。呉高専は電気情報工学科3年を中心とする3人で競技部門に参加しました。

今年は「よみがえれ、世界遺産」という競技題名でした。競技の内容は、10チームの対戦で行います。画像フィールドに1枚の画像が表示されて、複数の画像を修復するスタンプが用意されます。このスタンプを使うと元の画像が反転していきます。この複数のスタンプを画像の色々なところに使い、画像を修復して最終画像にします。できるだけ速く初期画像を最終画像に修復したチームが勝利するという競技です。初日は予行演習と第1回戦があり、第1回戦は7位でした。2日目の敗者復活戦も8位という残念な結果となりました。最後に、ご協力いただきました教職員の方々、父兄の方々に感謝いたします。



2011 年度の建築学科の活動を振り返って

建築学科 教育主任 篠部 裕

ここでは 2011 年度の建築学科のイベントや学生の活躍を簡単に紹介したいと思います。

① 4 回呉高専建築デザインコンクール

今年も呉高専建築デザインコンクールを開催しました。今回の課題は「自然の恵みを活かした住まい」です。今日、環境に配慮した住宅や建築のあり方は大きなテーマとなっていることから、中学生のみならずにもこのようなテーマの課題を出題しました。今回は広島県内の 9 つの中学校から過去最高の 144 作品が応募されました。外部の審査員を含めた厳正な選考の結果、最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点、審査員特別賞 3 点、入選 11 点が選ばれました。

11 月 5 日の表彰式には、最優秀賞の高橋佳夏さん、優秀賞の児玉志野さんと原直人さん、審査員特別賞の中向井優さん、茂木友寛さん、矢野遙香さん、入選の有田青生さん、仲田太郎さん、中田麻友さん、西田未稀さんと学校奨励賞の呉市立東畑中学校の岡島先生に出席して頂きました。

144 作品という応募数の多さも関係し、多様な提案と表現がみられ、大変レベルの高い建築デザインコンクールとなりました。



最優秀賞の高橋さんの作品

② 第 25 回日本工業大学建築設計競技「五感に響く「いえ」」入賞

この建築設計競技は全国の高校生を対象にしたもので、例年、本校の学生も応募し入賞しています。今年は建築学科 2 年生の吉川直樹君の「竹藪の家」

が佳作に入賞しました。吉川直輝君の提案は、週末住宅の敷地に竹藪を設定し、建築材料として竹を活用すると同時に、竹藪の中の生活を通して視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚の五感に響くいえを創ろうとするものです。

2011 年 11 月 6 日に日本工業大学で行われた表彰式では、建築家の若松均さんや小川次郎さんから提案内容をさらにより良くするためのポイントを直接助言頂きました。



吉川君の表彰式

③ 平成 23 年度宅建試験に 4 名の学生が合格

宅建とは「宅地建物取引主任者」の略称で、人気の高い国家資格の一つです。住宅メーカーや不動産会社で働く技術者にとっては、一級建築士と並び重要な専門資格の一つと言われています。平成 23 年度宅地建物取引主任者の学科試験は 10 月 16 日(日)に実施され、11 月 30 日に合格発表がありました。合格率は全国で 16.1%と厳しい資格試験ですが、本校建築学科から佐々木歩貴君(4 年生)、石本真帆さん、臼井敦美さん(5 年生)、船本綾香さん(専攻科 1 年生)の 4 名が合格者しました。本校の学生が 1 年で 4 名合格するのは私の知る限り初めてのことです。不動産概論 I の授業を基礎に独学で勉強した学生、資格専門予備校に通った学生と様々ですが、学校の授業で提出物に追われる中、よく時間を作って勉強し合格してくれたと思います。在校生の皆さんも学生のうちに宅建に合格し、就職活動や将来の仕事に活用してください。

以上の内容は本校の高専日誌でも詳しく紹介していますので、興味のある方はぜひそちらもご覧ください。

平成 23 年度 キャリア開発セミナー

キャリア教育推進室 山岡 俊一



キャリア開発セミナーは、本科 3、4、5 年生が受講対象の通年 2 単位の選択授業で、3 年間で 2 回（4 単位）まで受講が可能です。セミナーの内容は、学生が地域のニーズや問題を発見し、それらに対応したビジネス、あるいはボランティアプランを提案し、それを実践することで、学生自身がより高度な人間力を獲得することを目的としています。

セミナーではまず、人間力やプランの作成に関する講義による事前学習を行います。そして、具体的にビジネスプランやボランティアプランを受講生全員が作成し、中間報告会で評価されます。その評価結果を踏まえ、優秀なプランの提案者をリーダーに 10 チーム程度を編成し、各種調査や試行等を行いながらプランを再構築します。再構築したプランはビジネス・ボランティアプランコンテストにより評価され、次年度のキャリア開発セミナーで実践するという流れになっています。平成 23 年度は 47 名が受講しました。

平成 23 年度のコンテストではビジネス部門 4 件、ボランティア部門 8 件の計 12 件が提案され、審査の結果、下表のような結果になりました。

		ビジネス部門	ボランティア部門
優秀賞	テーマ	窓自動開閉装置	呉高専女子増加プロジェクト
	提案者	M3 内田博也 ほか4名	A3 新谷美佳 ほか1名
特別賞	テーマ	鳴らない目覚まし	小学校低学年の児童のための安全地図製作
	提案者	M4 濱田康裕 ほか3名	E4 新谷康輝 ほか3名

各種展示会における研究シーズ公開

協働研究センター長 黒木 太司

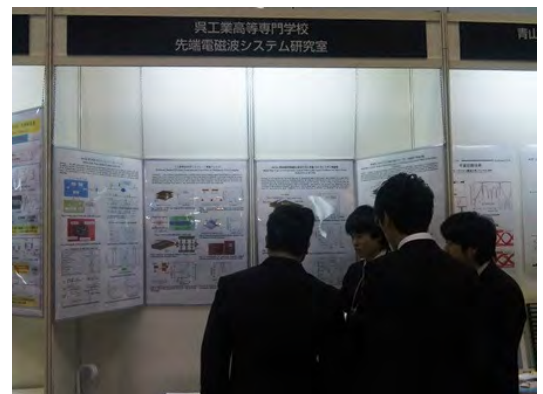
本校の研究シーズを公表するため、協働研究センターでは各種展示会への参加を企画しています。

今年は、中国地区における 2 年に一度の情報技術展示イベントである「ひろしま IT 総合展」が広島産業会館で開催されることから、10 月 26 日（水）～28 日（金）の 3 日間、電気情報工学科先端電磁波システム研究室の皆さんに、出展をお願い致しました。



ひろしま IT 展会場入り口の模様

また翌月は 11 月 30 日（水）～12 月 2 日（金）を会期とし、アジア・太平洋地区最大の MWE2011 マイクロウェーブ展が、パシフィコ横浜で開催され、同研究室の皆さんにアクティビティ高い研究成果を出展して頂きました。約 7000 名の皆様にご来場頂き、今年も多くの皆様との技術交流を通して、新たな研究の芽が育まれつつあるようです。



マイクロウェーブ展呉高専ブースの様子

呉・芸南学 「フィールドワーク成果報告会」

教務主事補 佐々木伸子

呉高専では、新しい授業である「呉・芸南学」が本年度開講されました。これは、呉高専の教員と広島商船高専と広島文化学園大学の教員や呉市関係者が呉・芸南地域に関する講義を行い、そこで得た知識を元にテーマを決めてフィールドワークを行う授業です。

4月から20回の講義を受けた受講生14名が11月よりフィールドワークを行い、その成果報告会が2月21日に開かれました。

7テーマに分かれて調査した結果が報告されました。報告されたテーマの例をあげると、「アガデミアの謎—なぜ阿賀に学校が集中しているのか」、「呉市がむき身牡蠣生産量日本一になったワケ」、「呉の酒年表～呉・芸南地域のお酒」、「いつ?なぜ?コッパンはメロンパンとなったのか?」などこれまでの講義をヒントにしたユニークで楽しいテーマが設定されていました。

また、本年度は、シニア世代の聴講生が受講しており、学生と一緒に熱心に調査、発表に取り組んでいました。聴講生が含まれたチームでは学生視点だけでは得ることができない世代を超えた議論から貴重な資料ができあがっていました。

地域学は、「身近な地域をさまざまな切り口で掘り下げて魅力や可能性を発見しよう」という目的で行われており、その成果は内容盛りだくさんの報告会に現れていました。来年度はどのようなテーマがでてくるのか楽しみです。

これらのフィールドワーク成果は、「呉・芸南学レポート2011」としてまとめて図書館に置き、一部はホームページで公開する予定です。



成果報告会の様子

エジソン・スクール第8回

電気を「組み合わせて使う」

ロボット（ライントレーサ）の製作

電気情報工学分野 横沼 実雄



写真1

5月から全8回として始まったエジソン・スクールも、12/17(土)の第8回で今年最後となりました。今回は「電気を『組み合わせて使う』というテーマで、ライントレーサという基本的なロボットの仕組みについて解説し、その後ロボットの製作を行いました。参加者は、小中学生から大人の方まで、午前・午後共に13名ずつの方がいらっしゃいました。

ロボットは、情報を感知するセンサ、電気を動きに変えるモータ、両者を繋いで制御する電子回路やコンピュータからできています。それぞれは、これまでのエジソン・スクールで取り上げてきましたので、その組み合わせでロボットができていることを説明しました。写真1が、午前中の解説時の写真です。

説明後は、私を含め教員2名と専攻科1年3名が製作を行いました。写真2が、その時の様子です。専攻科生が指導している様子が写っています。参加者全員が完成させて、試運転もうまくいきました。

なお、ロボットが実際に動いている様子は、呉高専ホームページにあります高専日誌のH23.12.17版に、動画ファイルを付けております。興味のある方は、是非ともご覧下さい。

最後に、エジソン・スクール第6回～第8回は、公益財団法人マツダ財団から「第27回マツダ事業助成 科学技術振興関係」の支援を受けて開催しました。支援頂いたマツダ財団の方々、協力頂いた教職員および専攻科生、そして何より参加して頂いた多くの方々に厚く御礼申し上げます。



写真2

「寮生活について」

建築学科4年 匿名希望



共同生活で大切なことは、他人の気持ちになって生活することです。共同の洗面所やトイレ、補食室、風呂などで自分勝手な使い方をしていては、他人に迷惑をかけてしまいます。ひとりひとりが共同スペースを気持ちよく使える環境を保つことを意識すれば、寮生すべての人が気持ちのよい寮生活を送ることができます。それと同時に、そういった意識が協調性を養うことに直接つながると思います。そして共同スペースだけではなく、自室であっても、まわりには他の寮生が生活しているわけですから、夜遅くに騒ぐこと、大音量で音楽をかけること、ボールなどをついて下階に音を響かせることなど、自らが出す騒音に対しても気を配る必要があります。このように寮は自らの生活を節制することができ、協調性のある自立した生活を学べる場所であるといえるのです。そうは言っても、いつ何時でも周りに友達や先輩・後輩がいることが寮生活の最大の意義、喜びであると思います。いつでも寮の仲間と談笑できることや、試験勉強や課題のことで困ったときにお互いを助け合うことができることなどがその理由に挙げられます。こうした友達や先輩・後輩といった横と縦の深い絆をつくることのできる場所が寮なのです。ひとつ屋根の下、同じ釜の飯を食べた仲間は家族のようなものであり、この絆は本当の家族と同様に切れることがないと思っています。寮には厳しいルールもありますが、それさえ守っていればとても便利で楽しい場所です。寮生活も残すところ1年ほどですが有意義なものにしていきたいと思っています。

「先輩」という立場

建築学科3年 麻村 晶子

私はこの嶺陽寮に入寮して、三年が経ちました。三月に先輩方を見送り、四月に新入生を迎える、という人のサイクルを二度も経験すると、名前と呼ばれる回数よりも、「先輩」と呼ばれる回数の方が多くなりました。

三年生というと、五年間のちょうど中間地点で、その立場というのも中間地点にあるように思います。実際に私は、先生或いは先輩の注意を受けてしまうこともありましたし、反対に、後輩達に対して注意をしたこともありました。

注意される立場というのは、大半が「後輩」という立場の時です。この立場で注意されたときは、反省し、反省を生かした行動をしていくことが大切です。

これとは反対に注意する立場、つまり「先輩」としてこれに臨む時は日頃の生活態度の積み重ねが大切です。日頃の生活態度が悪い人が注意をしても全く説得力が無いからです。

これまでは「後輩」として一日ごとに生活態度を意識するだけでしたが、今では「先輩」として年中、生活態度を意識するようになりました。

このごろ私は、「人を動かしたいなら、まずはその倍、自分が動け」という言葉を念頭に置き、生活しています。これは以前、先輩の仰っていた言葉です。まさに、その通りだと思います。掃除をしない人に掃除をしろと言われてもやる気にはなれないでしょうし、先輩・後輩間で声を掛け合ったりすることのない人に皆と仲良くしろと言われてたってきつと出来ません。

後輩が恥じることなく胸を張って「あの人は自分の先輩だ」と言えるような、そんな先輩でいられるようにこれからも日々、意識していこうと思います。

嶺陽寮の近況

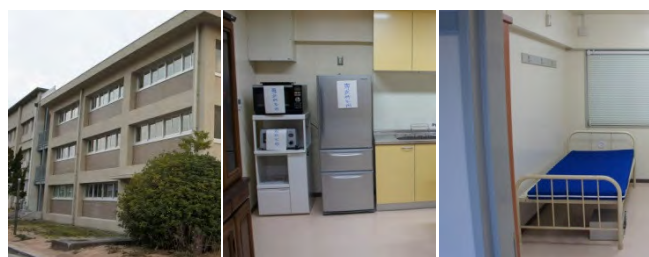
—寮棟割当再編および第5寮改修—

寮務主事補：仁保 裕

呉高専には呉市およびその近隣からだけでなく、遠方から入学した学生が多くおります。また、以前より呉高専は海外からの留学生を受け入れてきました。これらの学生のため、呉高専には学生寮として嶺陽寮が設置されています。

この学生寮の建物として、呉高専敷地内に合計5つの寮棟があります。これらのうち、第1寮は本科女子学生寮、第2寮と第4寮は本科男子学生寮として、また、第5寮と第6寮はそれぞれ男子留学生寮と男子専攻科生寮として用いられています。呉高専では女子よりも男子の方が圧倒的に多いため、基本的に男子学生寮が多くなっており、また、これまで女子専攻科生のための寮棟は設置されておらず、このため、女子専攻科生の皆さんは自宅もしくはアパートを借りることを余儀なくされていました。さらに近年、女子留学生が呉高専に入学しましたが、女子留学生寮がないため、第1寮の一部に女子留学生用の部屋を割り振っておりました。生活習慣の違い等もあるでしょうから、これまで女子留学生には多少不便な思いをしてもらっていたのではと推測します。

上記のように女子専攻科生および女子留学生用の寮棟の必要性が高まってきたため、今年度、第6寮を男子専攻科生および男子留学生の寮棟とし、空いた第5寮を女子専攻科生および女子留学生の寮棟とする寮棟割当の再編を行いました。なお、第5寮は内外装の経年劣化が著しかったため、割当再編に伴い内外装の改修を行いました。



第5寮外観

補食室

居室

第5寮には学生用居室8室、調理のできる補食室1室および洗面室とシャワー室があります。現在留学生2名が第5寮に在籍しております。また、新年度より、女子専攻科生1名を受け入れます。スペースの許す限り、多くの女子専攻科生・女子留学生を受け入れますので、遠方から通学されている女子専攻科生の皆さんは入寮をご検討されてみてはいかがでしょうか。入寮を希望される方、入寮を検討されている方はお気軽に寮事務までお尋ねください。

トムスク工科大学の学生との交流

電気情報工学分野 井上 浩孝

平成23年8月22日から9月4日まで、ロシアのトムスク工科大学からニコライ君とパベル君の留学生2名が呉高専にやってきました。23日、校長室に挨拶に行った後、研究室にて学生達と共同研究を開始しました。

前半の1週間は、専攻科2年生井上研究室の3名と、人の脳などをコンピュータ上に模倣して知的処理を行う「人工ニューラルネットワーク」の基礎を学習しました。

後半の1週間は、本科5年生の井上研究室の卒業研究生4名と実践的なニューラルネットワークの共同研究をしました。日本人2名、ロシア人1名のグループを二つ作り、同じ課題に挑戦してもらいました。まず英語の論文をみんなで読んだ後、その方法をコンピュータ上で実装する方法を英語で議論し、プログラミングをしました。どちらのチームも英語でコミュニケーションを取りあいながら、課題を達成しました。

最終日に研究発表会と茶話会が開催され、二人が研究室で学んだことを英語で発表しました。彼らにとっても、我々にとっても、大変貴重な経験となりました。

最後になりましたが、留学生二人の2週間の受け入れにご協力いただきました関係者のみなさまに深く感謝いたします。



送別茶話会にて

ホームステイ体験談

機械工学科4年 平上 ビクター

2011年10月中旬、呉高専の姉妹校であるハワイ大学マウイ校(University of Hawaii Maui College、UHMC)へ研修旅行に行きました。今年の参加人数は18名と、今まで行われたホームステイの参加人数と比べてかなりの大所帯となったため、騒がしくも楽しい旅行となりました。

マウイ島に到着し一晩過ごした後、UHMCにて日本語を学んでいる学生との交流授業が行われました。内容はPIN PON PAN ゲームと英語、日本語のみによる会話で、英会話は勿論のこと PIN PON PAN ゲームのルール説明も全て英語で行わなければなりませんでした。一連の工程を三度行った私たちは、一部の強者を除き皆憔悴した表情を浮かべておりましたが、普段慣れない英会話に触れたことにより確かな手応えを感じる事が出来たと思います。

交流授業の後歓迎会が行われ、そこで3日間お世話になるホストファミリーと対面しました。日常会話で使用される英語は交流授業で使用された英語とは格段にレベルが違い、聞き取り、理解するのにとても苦労しました。しかし、共に食事をし、英語のスラングを教えてもらい、マウイ島を代表する観光名所に連れて行ってもらったりと、日本では体験できない物事を見聞きしたこの3日間は、何物にも代えがたい貴重な経験となりました。

短期間ではあるものの外国でホームステイしたのは初めての経験であり、参加者は皆それなりに苦労していた様子でしたが、帰国時の満足した表情は鮮明に覚えています。皆さんもホームステイに参加し、普段とは違うエキサイティングな体験をしてみたいかがでしょうか？



中国地区高専連携国際交流活性化プロジェクト “International Student Conference in Dalian”

電気情報工学分野 黒木 太司

津山高専が主催する中国地区高専連携国際交流活性化プロジェクトも今年で2年目になり、今回は11月16日に中国遼寧省大連にて高専学生集会が行われました。

本校からは電気情報工学科先端電磁波システム研究室の本科生1名と専攻科生3名が、本集会に参加し、日ごろの研究成果を発表しました。

また研究集会後の懇親会も楽しみの一つで、参加者各人各様の短期間大連滞在でしたが、中国、ニュージーランド、チェコ、フィリピンの皆さんとの交流体験が一番の収穫でした。



専攻科生石野君と本科生井上君
(夕食の料理がどんどん出て来ます!)



ニュージーランドの学生と意気投合する専攻科生中島君

専攻科生日韓合同マイクロ波国際会議で講演

電気情報工学分野 黒木 太司



会議終了後、九大医学部百年講堂前にて

国内電子情報通信学会(IEICE)エレクトロニクスソサイエティと米国電気電子工学協会(IEEE)マイクロ波工学ソサイエティが共同開催する「日韓合同マイクロ波国際会議」が、今回は11月10～11日に、福岡市の九州大学医学部百年講堂で開催されました。この国際会議は、日本と韓国の電磁波関連研究者・技術者が一堂に集い、2年に一度、日本・韓国交互に開催されます。

本校からは電気情報工学科先端電磁波システム研究室専攻科生5名が、以下の研究成果を4ページの英文にまとめて投稿したところ、すべて採択されました。

- ・ 中島翔太(S2) ミリ波発振器の実用化研究
- ・ 田中智大(S1) 自己注入発振器の動作解明
- ・ 一瀬健人(S1) ミリ波高確度レーダセンサ
- ・ 沖田靖能(S1) 低価格・高性能フィルタ
- ・ 森田智紀(S1) 高分解能アンテナ給電技術

これらの専攻科生は、本国際会議で最も若い参加者でしたが、他の講演者に劣らず、15分間しっかりとプレゼンテーションとディスカッションを行っていました。当然のことながら、手持ち発表原稿資料は、厳に禁じています。聴講者やチェアマンから、「よく理解できた発表でした」との、お褒めの言葉を頂いていたようです。

私の剣道部体験談

交換留学生

Audrey Renee BEARDEN
オードリー・ベアデン

One of the clubs I knew I wanted to join when I came to Kure Kousen was the Kendo Club. When I went to my first Kendo practice I was very nervous. I thought that all of the club members would be very serious and not have any time to teach a beginner. It turned out to be the exact opposite because they were all very friendly and happy to teach me. On one occasion I went to practice and had about five people trying to teach me Kendo at the same time. It was funny because I kept thinking “How many Japanese does it take to teach the American Kendo?” Over the past few months my Kendo skills have slowly improved. I hope to continue practicing Kendo when I return to America.

私は呉高専でクラブは剣道部に入ろうと思っていました。私は最初の剣道の練習に行ったとき、とても緊張しました。クラブはとても厳しい雰囲気、初心者教える時間はないと思っていました。でも、みんなは非常にフレンドリーで私を教えたので嬉しかったです。ある時、私が練習に行ったら、約5人の日本の学生がアメリカ人の私一人に教えてくれた事が面白かったです。アメリカ人に剣道を教えるためにいったい何人の日本人が要るの？ 数ヶ月の間で私の剣道の腕前がだんだんと上がってきました。私はアメリカに帰ったら剣道の練習を続けたいと思っています。



“絆”としての里親会

呉高専里親会代表 海生 郁子

16年前、学校近郊の12家族で始めたささやかな留学生支援のグループですが、学校、教職員の皆様のご理解、ご支援のお陰で、留学生と年間行事を通して楽しい交流を続けてくることができました。この場を借りまして、心より御礼を申し上げます。

歓迎会、日本の伝統行事、行楽、スポーツ、卒業パーティ等、同じ行事の繰り返しですが、学生の顔ぶれが変われば、楽しみ方も変わりますし、我々里親は、より楽しく、もっと興味深い企画をと張り切りますので、いつも新鮮な気持ちです。

長年続けてきて、一番嬉しいことは、卒業生達が繋がり続けてくれていることです。在学中は、担当となる里親を決めています。担当里親以外の会員も、“みんなのお父さん、お母さん”として慕ってくれます。呉高専在学中、同じ家族に属したという連帯感が、絆として働くのでしょうか、同じ時期に在籍しなかった卒業生が、私たちの知らないところで親しくなっていたりします。

昨年暮れ、Facebookに、少々酔っ払った笑顔の写真と共に“里親会関東支部結成！”というタイトルで、卒業生からの投稿がありました。呉の里親会が絆となって、子供達がいつまでも仲良く付き合い続けてくれたら、こんなに嬉しいことはありません。この子達の帰る家をもう暫くは、残してあげたいと思うこの頃です。



終始笑いの絶えない、恒例のバス旅行

ニュージーランドでの語学研修

建築学分野 光井 周平

現代社会では、あらゆる分野においてグローバル社会で活躍できる人材が求められています。これからの時代、語学力やコミュニケーション力がますます重要視されることは間違いありません。

こうした人材を育成するためには、英語科の教員だけではなく、専門学科の教員も英語を用いた授業を積極的に行う必要があります。私は今回「中国地区高専専門学科教員英語能力強化研修」に参加する機会を頂き、ニュージーランド（以下、NZ）にあるWINTEC (Waikato Institute of Technology) に行ってきました。研修は、昨年8月に約1か月間、ホームステイをしながら語学研修に参加し、帰国後はインターネットを通じてのミーティングやオンライン教材を活用した学習を実施、2月に再度NZに渡って最終試験を受けるという内容でした。

私はこれまで海外での語学研修の経験がなく、授業や自宅学習を通して“試験のための”英語の勉強をしてきました。そのため、NZに出発する前は、現地の人々や留学生とコミュニケーションが取れるか不安な面もありました。しかし、留学生やWINTECのスタッフ、ホストファミリーの温かさに触れる中で「英語は世界の人々が思いを伝え合うための“道具”なのだ」と実感し、言葉や文化の垣根を越えたコミュニケーションの大切さを痛感しました。良い成績を取るための語学の授業ではありません。様々な世界を知るための“道具”を使えるようになってください。きっと楽しい世界が待っていますよ！



大連大学を訪ねて 一次世代を見据える窓口

国際交流室長 竹内 準一

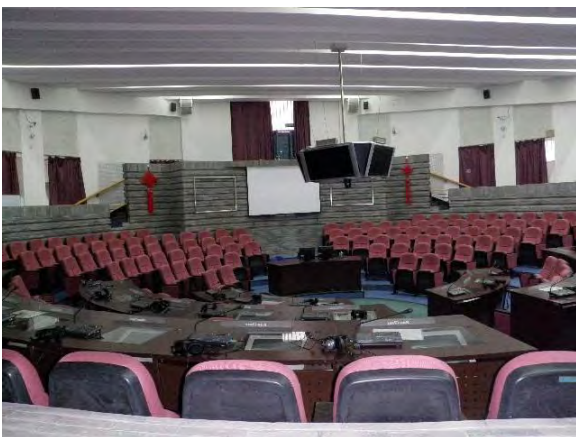
「ぼくたち、ディジマ以来の友人だね。」と、ある国際会議でオランダ人から告げられた際、一瞬、聞き取れませんでした。ワンテンポ遅れで長崎の「出島」のことと気づき、彼は日本の歴史を知っているのだと驚きました。

江戸時代の長い鎖国中も出島だけは日本と世界をつなぐ「どこでもドア」でした。引き籠もりがちな昨今、呉高専の「国際交流室」も現代のディジマを果たす役割があります。

呉高専は既に、米国マウイ、ロシアのトムスクと交流関係を築いてきていますが今回、日本とは関係が深い大連市にある大連大学と交流協定を締結しようとしています。

国が違えば教育が違います。もちろん共通部分もありますが、教育内容や教育方法に相違点があります。しかし、それは日本の国内だけにいたのでは実感できません。優劣は別として厳然たる差が存在し、それも時代の流れるままに教育の中身は移り変わってきます。その意味では、教員は次世代を生きる学生の将来を見据える視野を持つ必要があります。

今後の交流では日本企業の進出が著しい大連で、海外インターンシップの道を切り拓く狙いがありますが、同時に教員の意識改革も兼ね、まさに呉高専国際交流室が現代の出島となって日本と海外に橋を架ける窓口となるのです。



中国・大連大学が保有する国際会議室

退職にあたって

人文社会系分野 川尻 武信



昭和 56 年 4 月に呉高専の一般科に赴任し今年度の 3 月 31 日に定年を迎え退職することになりました。在職期間は 31 年になりますがすぐに経ったような感じがしています。

31 年を振り返りますと様々なことが思い出されます。その中で強く残っているもののひとつとして中国地区高等専門学校英語弁論大会があります。

昭和 60 年、高専生の英語力向上の一方策として中国地区の 8 高専が英語弁論大会を開催することになりました。しかも第 1 回を本校で開催することになりました。

開催にあたってすべてが零からのスタートでした。大会内容の検討は言うまでもなく大会実施要項や大会参加申込書や他高専への参加要領などの作成の打ち合わせに追われる日が多くありました。しかし、関係する教職員が一丸となり第 1 回弁論大会は、何とか終えることができました。

さらに、英語弁論大会に関する思い出を記すと第 19 回、第 20 回、第 21 回と連続して本校から優勝者が出たことです。第 19 回は暗唱の部、第 20 回、第 21 回はスピーチの部でした。優勝した学生達の一途な頑張りが心に強く残っています。

最後になりましたが、教職員、保護者の皆様に大変お世話になりました。皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

退職にあたって

機械工学分野 河野 正来



私は、今年度末で退職することになりました。昭和51年に呉高専に奉職してから、36年間務めたことになります。

振り返ってみますと、教育面（授業、クラス担任・クラブ顧問等）や研究面

などにおいて、さまざまなことが思い出されます。

授業に関しては、5年間の集大成となる卒業研究が、学生と接する時間も多く、いろいろな思い出があります。36年間で約100名の5年生を指導しましたが、時には実験がうまく進まないことなどもありました。毎年、卒業研究発表会が終わると、ようやく1年間が終わったという思いでした。

また、専攻科の特別研究については13名の専攻科生を指導しましたが、本科の卒業研究と比べると、よりレベルの高い研究内容が要求され、年度末に学位授与試験合格の報を聞いた時には、ほっとしたものです。

クラブ顧問に関しては、写真部、サッカー部、バドミントン部、テニス部などを担当しました（担当順）。ワングルスキー部の一週間にわたる北アルプス夏山縦走の引率では、無事に下山した町で、学生と一緒に久しぶりに入った風呂（銭湯）は格別でした。

卒業研究、クラス担任、クラブ活動、授業等で接した卒業生が、高専祭などの際に教員室を訪ねてくれたり、卒業生の年賀状や結婚式の招待状が届いたりした時が、教員としての喜びを一番感じた時かもしれせん。

終わりに、これまでいろいろとお世話になりました教職員ならびに保護者の方々に、心より御礼申し上げます。退職の挨拶といたします。

定年退職にあたって

電気情報工学分野 野村 博昭



平成14年10月に呉高専「電気工学科」に赴任して、早9年近くが経ち、平成23年3月で定年退職することになりました。私は、教育畑一筋ではなく、東京武蔵野市にあるNTTヒューマンインタフェース研究所

という実用化に向けての研究を行う一企業に21年間勤務し、その後大学で教えたあと、呉高専へ参りました。呉高専へきた時は50歳を過ぎていて、若い学生諸君を相手の毎日は、年齢的に体力知力とも下降気味とあって、高専独自のシステムに慣れるのに正直大変な部分もありました。

呉高専では数多くの学校行事がありますが、「海上自衛隊の潜水艦および護衛艦の見学」は印象に残っています。私は「広島県人」でないのに、呉という土地柄、海上自衛隊や海上保安庁が身近にある風景はなかなか興味深いものがありました。

3月11日の東日本大震災以降、日本中の人々の価値観が大きく根底からひっくり返されました。日本全体がより便利で快適な生活を求めてレベルアップしてきたことが、必ずしも、正しいことではなかったのではないかと、国民の多くが考えはじめています。社会システムの大きな変化に伴って、教育現場にも大きな変化の波が押し寄せることが予想されます。この先どのように変わっていくのか不安な部分も色々とあります。このような時期に現役を離れることになるのは心残りなところもありますが、教職員および保護者の皆様が一丸となって、今後の日本を支えていく優秀な人材を呉高専から輩出すべく、がんばって下さることを信じ、影から見守りたいと思います。私も4月から新たな目標を持って、故郷の九州福岡で人生の再出発をしたいと考えています。

大変楽しかった呉高専での生活

建築学分野 寺岡 勝



私は、3月31日をもって、本校から2度目の退職をします。

1度目の退職は、本校創立から建築学科学生および助手として7

年間を過ごした後の昭和46年3月末でした。その時の7年間の生活は、良き師、同級生に恵まれ、また高度経済成長期であったこともあり、何の不安もなく楽しく過ごすことができました。

2度目の勤務は、平成18年4月から今日迄の6年間です。教育・研究・地域貢献にと忙しいながら、良き学生、良き教職員仲間および研究仲間に恵まれて楽しく、また大過なく過ごすことができました。特に学生との語らいの時間は、精神衛生的にも良く、大変楽しいことでした。引退に際し、奥の細道の一節「月日は百代の過客にして行かふ年も又旅人也」に帰らぬ年月を思いながら、また役割を分担しつつ人生の日々を過ごすことの意義について想いをしています。

創立時から今日まで、社会から高専への要求は多様に変化して来ています。これに対して高専は、一貫して体験を重視したユニークな教育により社会の要求に答え続け、役割を果たしてきていると思います。呉高専はもうすぐ創立50周年(2014年)を迎えます。本校卒業生の1人として「50周年記念事業」を皆様と一緒に考え・実行することで、これからの呉高専の更なる発展の礎を築くことができたらいいなと思っています。

最後になりましたが、呉高専の益々の発展を祈念し、また皆様のご援助にお礼を申し上げますと共に、ご健勝とご多幸を祈念して筆をおきます。

卒業を前に思うこと

機械工学科 河本 真紀子

これを書いている今日は、二月十六日。来月の今日には、五年間慣れ親しんだこの呉高専で、卒業を祝ってもらえるみたいです。と、なんとも感動の薄い文字面なのは、身も蓋もないことを言えば、まるで他人事のように思えるからでしかありません。

私は吹奏楽部で演奏の役目があったので、毎年の入学式と卒業式を見てきました。「期待と不安で一杯です」と幼い声で言う少年少女が、五年後には立派な正装に身を包み、「呉高専の卒業生であることを誇りに思います」と頭を下げる。この素晴らしい式で、私は今年も演奏がしたいのです。楽器を吹く自分の姿ばかりが思い浮かんで、まさか自分が送り出される側だなんて、未だ実感が湧きません。そんな私を置いてきぼりに、周囲の人は「もう卒業だね」とか「淋しくなります」なんて言います。先生も後輩も同級生も、それが当たり前という顔をしています。自分だけがこの五年間に未練がましく縋り付いているように思えて、恥ずかしながら、不安になりました。

先日、実感がないのに周りばかりが卒業に向かっていく、と零したら、後輩に笑われました。「そんなことだと、卒業式当日が大変ですよ」と。一ヶ月後の今日、私は急に色を付けた「卒業」に打ちのめされて、ろくなお別れにならないでしょう。きっと、ぐしゃぐしゃな顔を見せることになると思いますが、どうか笑ってやってください。

最後の最後になって情けない話をしてしまいましたが、これが正直な気持ちです。呉高専で出会った全ての人に、ありがとう。またいつか。



野呂山頂上にて

卒業に向けて

電気情報工学科 池端 秀治



私は中学時代吹奏楽部だったこともあり、高専でも吹奏楽部に入った。中学の部で私が経験不足だったため、

他校の同級生に比べて技術的にも経験的にも劣り不安の残る状態での入部だった。ところが同期の新生は楽器の未経験者も少なくなく、演奏の上手下手に拘らずにのびのびと練習することが出来た。

また、入部当初は最大で六歳も年上の先輩の方々に遠慮してしまい、なかなか仲良くなることができずにいた。しかし入部後すぐに行われた花見やパート練習、そして吹奏楽部ならではのいい意味で上下関係の薄さのようなものも手伝ってか、その後よく交流するようになり部活のことだけでなく寮生活のことや勉強のことまでいろいろ教わった。

それから後輩が出来て、だんだんと責任のある立場になってゆき今度は私がいろいろな話を後輩にするようになった。そして部活の幹部としての仕事もするようになり仲間との連携のミスやタスクの優先順位が付けられずに仕事を滞らせたりもした。楽しいことも多かった。一年に一度、夏休みに行われる定期演奏会に向けての合宿では一日の練習が終わると、オリエンテーションで交流を深めたり普段なかなか話す時間がない部員たちと夜遅くまで語り合ったりした。そうして最後の定期演奏会が終わったあと後輩たちに感謝と激励の言葉を贈り、私の5年間の部活が終わった。

こうして振り返ってみるとあっという間に感じた5年間の中にたくさんの記憶が詰まっているものだと今、しみじみと感じる。きっと、これから辛いことや大きな壁にぶちあたってもこの五年間の思い出や学んだことを思い出して、乗り越えていけると思う。

楽しかった5年間

環境都市工学科 村上 隆則

私が、入学してから5年が経とうとしています。これまでの人生の約1/4を過ごしたというのに、あっという間だったというのが、正直な感想です。「楽しい時間は早く過ぎる」とはまさにこのことだと思います。

学校生活を楽しめた理由として、一番に思いつくのは、月並みではあるが友達存在です。初対面の人間と話すのが苦手な私ではあるが、似た趣味を持つ人も少なくなく、距離を縮めるのに時間はかかりませんでした。他愛もない話で盛り上がりたり、テストの点や順位などを競ってみたりと楽しい思い出ばかりです。先生からは「活気のないクラス」などと言われたこともあったが、私にとってはみんないい人間ばかりで居心地のよいクラスでした。

楽しめたもう一つの理由として、教員の存在が挙げられます。中学校時代に私が持っていた教師へのイメージは「すぐキレる」、「ひいきする」、「とにかくウザい」といったマイナスのイメージばかりでした。それに対して、呉高専の教員は、学生と対等に接してくれました。勉強で分からないところがあれば分かるまで徹底的に教えてくれ、就職活動の時などは、一方的な指導でなく共に親身になって考えてくれました。また、自身の人生観を熱く語ってくれる先生もいました。そういった、教員の在り方は、私が中学校時代の教員に対して持っていたイメージを払拭し、逆に尊敬の姿勢を与えてくれました。だからこそ、授業の内容以上に多くのことを学ぶことができ、学校生活が充実したものになったと思います。

この5年間、友達や先輩、後輩、先生方とから多くのことを学びました。この学生生活は今後の人生での大きな支えとなると思います。



5年間ふりかえって

建築学科 岡田衣梨子



私が入学してから早くも5年が過ぎようとしています。5年って長いなと思っていた私ですが、過ごしてきた今あつという間だったと感じています。5年間で充実していたから、こう感じるのだと思います。

その中で大きく心に残ったものは2つあります。

1つは私の生活の中心であった部活動です。野球部のマネージャーという裏方ですが試合に勝った時やうまくプレーができた時など選手と同じように喜びを感じることができました。高専全国大会にも出場できたことも嬉しく思います。先輩が引退してマネージャーが私1人になった時とてつもなく不安でしたが、選手からの私も野球部の仲間だという言葉に勇気づけられました。さらに選手の保護者の方や顧問にも支えてもらったからこそ、ここまでやってこられたのだと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。5年間、野球部のマネージャーとして仲間としていたことを心から嬉しく思います。

もう1つは5年間一緒に授業を受けたクラスです。

まとまりのあるクラスとは言えませんが5年間クラス替えがなく、毎年の高専祭、球技大会、体育祭り、駅伝大会、研修旅行など行事を終えるにつれ少しずつみんなの距離が近づいていったように感じます。最後にはクラス全員で卒業アルバムを作ることができ、今年やっと最高のクラスになったのではないかと確信しています。

これからはみんな別々の道を歩く事になるけど、この5年間過ごしてきた日々は自分たちを支えてくれると思います。

この5年間の学校生活が充実したものになったのはクラスのみならず他学科の学生、先生方、保護者の皆様のおかげだと思っています。5年間本当にありがとうございました。

入学してから7年・・・

機械電気工学専攻 川口 哲史

この呉工業高等専門学校の本専科に5年、専攻科に2年。現時点における人生の約3分の1を過ごしてきたのかと思うと感慨深いものがあります。

そもそも、なぜ私が呉高専に入学したかというところ、
1. 専門的な勉強ができる 2. 受験勉強をしなくていいので自分のやりたいことに打ち込める 3. 就職率が高いといった理由が挙げられます。実際、私は電気情報工学科や専攻科では電気や情報関係についてたくさんのことを学べましたし、学業以外では陸上部で部活動に励みました。また、就職先も無事に決まり、今はとても安心してしています。

そして、この7年間で貴重な体験をしたことが2つあります。1つは本科4年時の特別見学旅行です。行き先はグアムでした。私にとっては初めての海外でしたので、楽しみな反面、不安でもありました。現地で見えた景色の数々は今でも忘れられない思い出です。同時に英語でのコミュニケーションに苦労した覚えがあります。その時に「もっと英語を学んでいたら・・・」と思いました。そして、もう1つは今年の夏に行ったロシアの留学生との共同研究です。やはり、普段やっていることを英語にして話すまたは聞くというのは文法を学んでいるだけではどうにもならないことでした。しかし、こちらの拙い英語で理解してくれたとき、逆に相手の話すことが理解できたときはとても嬉しかったです。

最後に、私がこれまで過ごしてきた呉高専での充実した出来事は、他の何事にも変えられないものですし、他の何よりも幸せなことだと思っています。



7年間を過ごして

建設工学専攻 岡本 有希加

本科の入学式当日、「ここが呉で、この大きな学校で勉強していくのか。」これが私の呉高専に初めて足を踏み入れた時の第一声である。それから7年の年月が経とうとしている。早いもので4月からは、新天地での生活が始まる。卒業を間近に感じ、ご指導くださった先生方、毎日三原から送り出しどんな時でも支えてくれた家族、お世話になった研究室、私を支えてくれた全てがとても大切で大きな存在であったことに気づき始めた。少しずつ変わっていく校内、7年間通学し多くの時間を過ごした JR 呉線、そろそろお別れだと思えば寂しく感じる。そして、今はその全てに感謝している。5年間一緒だった仲間も卒業し、専攻科生として印象に残っている事は、締め切りに追われ続けた学会発表である。2年生の時に研究室が変わり、地盤工学会やテラメカニクス研究会など5つの様々な学会で発表することになった。学会に出席し感じたことは全ての分野に面白さ、素晴らしさがあるということだ。自分とは関係ないと思わず、知らなかったことを知れる喜びと驚きを早く経験してほしい。桜が舞う季節、私は松山にいる。愛媛大学大学院理工学研究科で学ぶことになっている。まだまだ、なにも知らない私にはきっと多くの驚きが待っている。呉高専は幅広い分野を学べる特殊な学校である。どんなことでもチャレンジし、みなさんが卒業する時には呉高専で過ごせて良かったと思える高専生活を送って欲しい。



灰ヶ峰に登ってみて

機械工学科1年 堀 雄貴

10月13日は、前日までの天気予報では天候不良になるかもしれない、とされていた“灰ヶ峰登山”の日でした。しかし、予報は良い方向へと裏切られ、涼やかな曇り空のもと、僕達は出発することができたのでした。皆がどう思っているかはわかりませんが、僕はこの登山で、新たな達成感をわが身で体験できたと思っています。

初めのうちは、学校が企画した遠足だと、少なくとも僕は山道に入るまで、高を括っていました。しかも、第3のチェックポイントを過ぎた辺りから僕達は息も絶え絶えとなり、この登山はキツイぞ、と確信したのでした。しかも登っていく毎に体に溜まる疲労感が増し、いつしか班内からは会話が消えていました。

しかし、ついに辿り着いた山頂からは呉市全体を見渡すことができ、ここまで登ってきた苦しみもまるで吹き飛ばすようでした。ここに来て初めて遠足に参加して良かったなと思えました。

そのときはまだ下りのことは考えもしなかったわけですが…

ともあれ、頂上まで登り切ったときの、やっと終わった、という安堵感と、登ってやったぞ！という満足感がない交ぜになったような達成感がとても心地良かったわけなのです。

この達成感を味わえただけでも、今回の遠足は大切な経験になったと思います。とは言え、次に遠足に行く時は、足腰をきちんと鍛え直してから行きたいと思います。



灰ヶ峰遠足 ―各班の感想―

電気情報工学科 1年



1班 (松葉康平)
1班は全員で協力して登山できた。K君がスタスタと登っていくのを見て「さすがヨーヨー同好会の会長様だな」と思った。

すこし曇っていたが、頂上からは呉市が一望できて綺麗だった。またいつか、誰かと一緒に夜景を見たいものだ。

2班 (田坂優太) 僕は、10月13日の登山で、山を登りることができました。そして、強い達成感を感じました。理由は、登るときにとても苦労したからです。足場も悪く、坂も急なので、とても疲れました。

3班 (竹寄幸之助) 僕は阿賀地区に住んでいて、小・中学校と毎日、登校途中に灰ヶ峰を見ていました。しかし登った事は一度もありませんでした。山頂のレーダーを外からですが間近で見ることが出来たのは、いい思い出になりました。

4班 (上本紘平) そこそこ標高が高く、険しい山道を登っていくと、遅れる人が出てくる。すると、班がペースを合わせる。肩をかしたり、水を分けてあげたりする。そういう光景がよく見られた。今回の遠足で、お互いに助け合う気持ちが大きく成長したと思う。

5班 (宗藤恒太郎) 楽かと思ったら予想以上に大変でとても疲れました。もう山には登りたくないです。ですが、山頂まで登ったら達成感が出てきました。

6班 (光野祥平) 「爽やか 100%(濃縮還元)」朝皆で集まった時これから起こる出来事に、期待に胸を膨らませた。僕らの班の出発は最後で、途中の坂はきつかったけど班内で協力しあい全員最後まで登りることができた爽快感は格別だった。山に登って普段の勉強の疲れをリフレッシュする事ができた。下り道が大変だったのは予想外だった。しかしこの行事は僕らの青春の一頁に刻まれたと思う。(結論：爽やか過ぎると逆に胸焼けを起こす。あと文章が変なのは悪しからず。)

7班 (吉川和秀) 僕は灰ヶ峰登山が人生初の登山でした。遠足に行く前は登山の経験が無かったのでかなり不安でしたが、友達と励ましあう事が出来たので楽しく登ることが出来ました。当日は霧がかかっていたので景色があまり見えませんでした。また晴れた日にみんなで挑戦してみたいと思います。

灰が峰登山

環境都市工学科 1年 児島 凌太



みんなが仲良くなってきた10月に登山に行ってきた。自分たちのクラスは仲は良いが、少しおしゃべりが過ぎていたので心配だった。集合時間にも何人も遅れていたの、登山はどうなるかと思った。

中央公園から神社までの道で、すでに疲れている人が沢山いた。灰が峰を目の当たりにして驚き登りがいがあると思い、やる気がでた。

神社から各班ごとに、登り始めた。自分たちの班は最初、世間話など楽しくしながら登っていた。他の班の人たちは大声で歌っていたりしてやっぱりこうなったと思った。

6、7合目までは少し余裕があり、写真を撮るときはピースもできていた。



最後の階段は段と段の間がすごく大きくみんな辛そうだった。でも、灰が峰の頂上に着いた時の達成感他では味わえないものがあり、とても良い経験になった。



灰ヶ峰登山

建築学科1年 伊達 千尋

10月13日。4学科合同の遠足の日で、灰ヶ峰登山をしました。全学科の人達と触れ合える機会は珍しく、楽しみだなあという気持ちもありつつ、先輩たちから、灰ヶ峰はしんどいなどと聞いていたので、登るのいやだなあという気持ちもありました。

当日。まず中央公園に集合し、そこからスタート地点の平原神社まで歩いて行ったのですが…。スタート地点までに急な坂道が多く、もう登山始まっている!?という気持ちになりました。さて神社から、班ごとに登山開始です。最初は好調なペースでスタートしました。ですが数分後…。さっきまでの元気がウソのようにになりました。まだ山道じゃないのにこの坂道の急さ!多さ!そこでばててしまいうさだたのですが、何とか乗り越え山道に突入。山の中は風が吹いて涼しく、登りやすかったです。荒い息を吐き、足をふらつかせながらやっと頂上…!!と思いきやただの休憩場だったのには裏切られた気持ちになりました。そして、また登ること数十分。だんだん皆の声が近くなり、大きな建物が見え始め、やっとの思いで頂上に到着です。あんなに大変だった登山でしたが、登ってよかったなあと達成感で胸がいっぱいでした。少し曇っていたので残念でしたが、最高の景色を見ることができて良かったです。帰りも大変でした。なので呉駅に着いた時には、今日はよくやった…!!と達成感でいっぱいでした。

灰ヶ峰登山は大変でしたが、得たものも多かったです。この思い出は後にいい思い出として語り継がれるでしょう。本当に皆さんお疲れ様でした!!



「宮島、僕と水族館と時々シカ」 ～僕とブーツの一日戦争～

機械工学科2年 尾越 匠

皆さんにとって遠足って何でしょうか?友達との憩いのひと時?飽くまで観光?ここぞと言わんばかりのアピールタイム?人によって遠足の捉え方は様々でしょうが、僕にとって、今回の遠足は「戦争」でした。

何気に長い移動距離&時間、平日なのにうじゃうじゃいる観光客、現地での異常なまでの店員の客引き、群がる鹿、付け慣れないコンタクト、履き慣れないブーツetc…。遠足を「戦争」に例えるならば、宮島は、まさに「戦場」でした。何故なら、友達と一緒に遠足を楽しんではいけない、班長としての責務、その上、学級委員として全ての班をまとめなければならない。自分がやり切れたのかどうかも分からない位、過酷な1日でした。

でもその「過酷」さの、一番の原因を作ったのは、間違いなく僕自身でした。何故か。すべては前日の夜から始まりました。

誰でも一度は経験する「遠足の前って寝れないよね〜?」現象。これって色々なイベントの前日によく観測できることですが、ものの見事に、僕と周りの友達で観測できました。学生寮の点呼は10時半位に終わるのですが、それから友達との井戸端会議、その後映画を2本立て続けに観てしまい徹夜。結局、宮島行きの電車の中で爆睡したものの、疲労は取れず、船では軽い船酔い、下船した時には、既に満身創痍でした。でも本当に大変なのはここからで。。は言うまでもなく・・・。

しかし、楽しいこともたくさんありました。何と言っても鹿。可愛かったです。そして島でたまたま出会った芸能人。チュートリアルら多くの芸能人を観ることができました。さらに、リニューアルした水族館も面白く、もう少し時間が欲しかったです。大変だったけど、とっても楽しい遠足でした。

遠足－宮島の印象

電気情報工学科 2年 川元 洋介

僕が宮島で印象に残った場所は二カ所あります。

一つ目は厳島神社です。海の上にある大鳥居や本殿は赤色がとても美しく、神秘的でした。

二つ目は水族館です。最近新しくなったこともあり、いろいろな工夫がされていて楽しかったです。また、スリナメやペンギン、アザラシ、きれいな熱帯魚など普段見られない生き物を見ることができ、貴重な思い出になりました。

その他にも、番組ロケをしている芸能人を見ることができました。また、もみじ饅頭や、宮島独特の景観を味わうことができました。今回の遠足のような思い出を増やしていきたいと思います。

最後に同じグループで一緒に歩いた皆の思いを代表して、森下瑛彦君の言葉を記します。

「宮島へは初めて行った。

世界遺産も結構きれいだった。

ちょっと遠足っぽくないっぽかったけど、高校生って感じがして楽しかった。

観光地らしい観光地には案外こういう時しか行かないので、こういう機会があって思い出になった。」



C 2 in 広島

環境都市工学科 2年 延廣 耕作

2年環境の遠足は、広島市内散策でした。横川駅から平和公園、比治山を通過して広島駅までの約7.5キロを歩きました。

朝、阿賀駅に集合して、横川まで電車で1時間弱景色楽しみながら行きました。

つぶやき：かるが浜あたりはきれいでした。夏には海水浴に行きたいな。

広島集合の人と合流して、いよいよ散策本番です。横川駅から平和公園までは、班ごとに川沿いを歩いて行きました。川では鴨をみることができました。普段意識してないけど、歩いているときには、意外なものが見つかったりして楽しいです。

つぶやき：鴨はおいしいそうですが、僕はまだ食べたことがありません。

班ごとにコースが違うので、平和公園の到着には、だいぶ班でちがいがありました。自分たちの班は割と早く着いたので、トランプとかして遊びました。

つぶやき：トランプは、そんなに盛り上がりませんでした。周りの目をきにしたからでしょうか。

次の目的地は、比治山です。100メートル道路（平和大通り）を、真直ぐ東に歩けばOKです。

僕たちの班は、比治山の下側のトンネルを通り抜け、反対側から、階段・動く歩道・エスカレーターを使い登りました。けっこう急なところで、ちょっと怖いぐらいでしたが、上では、可愛い黒猫が出迎えてくれました。

つぶやき：クラスの友達は、猫が好きなのに猫アレルギーだそうです。かわいそうなヤツめ（笑）

集合場所のマンガ図書館前までいくと、ほとんどの班が既に着いていました。昼食をとり、その後の自由時間は、のんびりと過ごしました。



最後、広島駅まで歩いて帰りましたが、実は、このとき凄いことがありました。歩いていると、はんにゃの金田さんが現れました！しかも、その後ろからチュートリアルの徳井さんとNONESTYLEの井上さんと里田まいさんが、歩いてきました。そして、インタビューされてしまいました。関西の番組の撮影中だったようです。

つぶやき：内心パニック状態だった。芸能人に会えて、少しだけ話もできて、しばらくは興奮が治まらなかった。

このあと広島駅でみんなと集まり、呉方面の人は一緒にJRで帰り、無事に僕たちの遠足は終わりました。遠足で感じた楽しいことを生かして、これからの高専生活も頑張っていきたいと思います。

二年建築広島への旅

建築学科2年 桑田 千愛

10月13日、広島市内に遠足に行きました。天気はあいにくの雨でした。引率には、担任の左古先生と、建築の専門教科を教えてください光井先生が来てくださいました。

見学した場所は、縮景園、広島城、中央公園でした。

広島駅前の点呼では遅れてきた人もいたので、休んだ人を除いて全員がそろったのは縮景園でした。縮景園はとてもきれいな庭園で、建築のみんなにはこれから勉強していくうえでとても参考になっていくと思います。雨が降っていなければもっときれいに見えたのではないかと思います。今度は、梅や紅葉の季節に行きたいです。



次に、広島城に見学に行きました。広島城の向かうところには雨も上がり少し日も見えていました。私は広島城が初めてだったのでとても楽しみでした。引率の光井先生は広島城が大好きだそうで、とても興奮しておられました。広島城につくと班ごとの自由行動となり、中央公園やお城の下でお弁当を食べました。天守閣に登った人の話を聞くと職員さんがていねいに案内をしてくださったそうです。

この遠足を通して、今まで仲のよかった人も、あまり話をしたことなかった人とも、今まで以上に仲よくなれたような気がしました。

ステップキャンパスを終えて

機械工学科3年 新 孟大

僕は今回ステップキャンパスのクラス代表として仕事をしましたが、自分から立候補した訳ではなかったなので、あまりやる気はありませんでした。しかし、仕事が進むにつれ、だんだんとステップキャンパスが楽しみになってきました。

話し合いの段階では「こんな企画盛り上がらないだろう」とか「仕事多くて面倒臭いな」等色々愚痴を言ったりしましたが、実際には自分が担当した企画も、全体的に見ても成功したと言っていいと思います。でもこれらが上手くいったのは、参加してくれた皆が盛り上がってくれたことや瀬井君、神田君の上手い司会があったからだと思います。

特に瀬井君は学年代表のリーダーとしての仕事を十二分にしたと思います。話し合いでも皆が盛り上がっている中でも、中心に居たのは彼ですし、何より彼自身が楽しんでくれたおかげで、皆にもその空気が移ったから盛り上がった…までいくと嘘になりますが、とにかく彼はステップキャンパスの立役者です。

学生会の新聞で記者が瀬井君に「ミス&ミスターステキャンと言えば？」と聞いていましたが、僕は彼にミスター、いやミスとミスター両方の称号をあげたいと思います。

ステップキャンパスを終えて、というよりは瀬井君を褒める文章になってしまいましたが、とりあえず僕のステキャンと言うとこんな感じです。あ、あと他学科の友達が増えたのが嬉しかったです。



「ステップキャンパス」に参加して

電気情報工学科3年 平井 勇大



ステップキャンパスとは、高専生生活の折り返しである三学年を有意義に過ごすために企画されたものです。今年で7回目の開催で、学生主体で行動し責任

感を培う、学生時代のいい思い出を作る、今までの学生生活を振り返り今後に生かす、などの目的のもとに行われており、レクリエーションの企画・実行などもすべて学生だけで行いました。学生のみで行事を行うことがないため、準備不足や若干のグダグダ感は否めませんが、将来に生かせるとても大切な経験をしたと思います。

企画は一日目の学科混合でのレクリエーション企画、学科対抗球技大会、二日目の料理大会、ミニ運動会、三日目の登山などがあり、一日目の午後に新たに学科対抗球技大会を入れるなど新たな試みも行われました。

一日目の企画では時折予測不能の事態はありましたが、各々各学科混合で作られたグループでも和気藹々と過ごすなど、企画全体は滞ることなく進められました。

二日目の料理大会では各グループとも、レシピに忠実に調理した班がいるかと思えば、独創的なアイデアで新たな境地を見出した班など、グループの色が出る楽しい企画でした。

午後のミニ運動会では、団結して競技を進める学科、頭を使い戦略的に手を組み戦術で相手を追い詰める学科、戦術・戦略を力でねじ伏せる学科など、各学科それぞれの個性が出た企画でした。

三日目の行事であり、ステップキャンパス最大のイベントと言っても過言ではない”野呂山登山”は天候が心配されましたが、幸か不幸かギリギリのところを持ちこたえ、登山決行となりました。

登山中は各の個性が出るもので、ハイペースで登りつ続ける者、マイペースで登る者、グループで登る者、一人で山を満喫しながら登る者など、様々でした。頂上からの景色は残念ながら濃霧のため見ることはできませんでしたが、5m先も見えないほどに見事な霧を満喫しました。下山の仕方もやはり個性が出るものでした。

普段の学生生活では、同じ学科の面々と顔を合わせるため、同じ穴の貉とでも言いましょうか、どことなく似た様な振る舞いの人間が多いのですが、こ

うして他の学科との交流・対抗戦などを体験すると、やはり他の学科の個性に刺激されます。様々な人たちがいる中で、自らの個性を失うことなく、しかし人の個性を殺すことなく円滑に対人関係を築くことの大切さや、他学科との交流など、ステップキャンパスを通して学ぶことは多く、大変有意義な三日間でした。

野呂山と霞と私たち ～ステップキャンパス最終日にて～

環境都市工学科3年 伊藤 雄貴

3年生にもなると、呉高専という学校のシステムにも馴れ、親しい友達という枠組みも地盤が固まりきった頃かと思われま



そんな最中、三日間に及んで開催された今回のステップキャンパスは、新たな友達作り、クラス間の更なる交流において、とても意義のあったものだと思われま

ステップキャンパスでは学科同士の競技、料理対決、レクリエーションなど様々なイベントが繰り広げられましたが、その中でも特に最終日の野呂登山。私はそこでの体験が強く心に残っています。

野呂山は広島県呉市に位置する標高839mの山で、南部に位置するため、比較的近隣の都市部からの観光客も多いらしいです。

登山当日はあいにくの曇りで、雨が降ることもしばしばありました。加えて登山コースは肉体的に非常に厳しいもので、かつ滴る汗と降り散る雨が精神的にも堪え、おそらくほとんどの生徒が家に帰りたという願望を持ったことでしょう。私もその中の一人でした。

しかし、そんな私の邪念も、頂上に到着した瞬間、一気に霧散しました。

それは周囲を覆ううっすらとして神秘的な霧。体内からすべての疲労を吐き出してくれるかのようなすがすがしい大気。それらはことごとくが未体験の出来事で、まるで秋の野呂山に訪れた霞のようでした。

誰もが肌で感じ取れる自然の美しさ。私はその光景をまざまざと見せ付けられ、思わず安心してしまったほどです。

特別見学旅行：グアム体験記

機械工学科4年 下重 達矢

機械工学科は今年10月9日から13日まで特別見学旅行でグアムに行った。旅行中にあった印象に残った出来事について書こうと思う。

私はグアム空港の入国審査でこう聞かれた。

「タイバニ？」

タイバニと言うと、あのアニメ、タイガーアンドバニーの事だろうか？私は正直このアニメをよく知らない。なので、

「アイ・ドント・ライク・タイバニ」

と答えた。そうすると、入国審査の男の人の眉が釣り上がった。私は何か悪いことを言ったのだろうか？妙な不安が頭をよぎった。

「タイ・ザイ・モク・テキハ？」

私があたふたしていると、ゆっくりと日本語で言ってくれた。ああ、「滞在目的」だったのね。

クラスメイトのBが「コンビニ行こーぜ」と言った。他の人はレストランなどといった高価な所に行っていたが、Bの話を聞くに、普通のコンビニではなく現地の、日本で言うとマスカワストアーみたいな所に行くらしい。これは経験しておくべきだろう。

店は日本の店と違い薄暗かった。店員は携帯電話をつついていて。一番目を引いたのがハンバーガーだった。肉が日本のと違った。そこら辺のスーパーで売っているような肉ではなかった。ファミレスで出てくるようなワンランク上の肉だった。そのハンバーガーは迷わず購入した。ホテルで食べたが申し分ないおいしさだった。



次の瞬間には、自販機へとGo! していましたが（笑）野呂山はとてもすばらしいところです。必ずその雄大な自然の姿に逢えることでしょう。

最終日、私たちは野呂山のすばらしさに思いを馳せ、ステップキャンパスは幕を閉じました。

今回の行事に参加協力してくださった生徒・先生方、お疲れ様でした！ また地域の皆様には深く感謝いたします。最高の思い出を私たちは築き上げることができたかと思えます^0^

ステップキャンパスの感想

建築学科3年 池本 倫也

10月12、13、14日にステップキャンパスが行われました。第一日目には学科混合企画と学科対抗球技大会があり、学科混合企画の内容として借り人、小数決、イントロ当てクイズ、目利き、ロシアンルーレット、ビンゴゲームがあります。学科混合企画で印象的だったのは借り人とロシアンルーレットです。借り人とはくじを引いて当たった人が前に出てきてモノマネなどをするものです。自分が当たるかもしれないという恐怖しかありませんでした。第二日目にはカレーライス、焼きそば、餃子等々を作る料理大会と昼からミニ運動会が行われました。料理大会は皆どの学科も美味しそうにできていました。ミニ運動会で私達建築学科は綱引きにおいて圧倒的な力の差でストレート勝ちをしました。建築学科のチームワークがより深まったと思います。

第三日目はあいにくの雨…。ですが、登山はありました。とにかく疲れました。一昨年登った灰が峰の比ではないくらい辛

く長い道のりでした。帰りは個人個人で帰りましたが、道路を歩いて帰ったら行きよりも長い道を歩かなくてはなりません。この三日間楽しいことばかりではなかったけれど、僕たちは四、五年生へ向けてしっかりと「ステップ」できたと思いました。



料理大会の様子



登山の様子

研修旅行 感想

電気情報工学科 4年 松島 圭吾



私たちは研修旅行の旅先として3泊4日で台湾に行ってきました。

初日。今日から部活も授業もないと思うと非常にテンションが上がる。飛行機で約3時間程で台湾に到着。その後、故宮博物館の見学でしたが、楽しみを見出すのが難しい。ガイドさんの説明込みでも展示物の価値という物がイマイチ分からないという感想。そして台北101という物凄い高いタワーの見学。たかーいねー。綺麗だねーと思ったけど……強いて言えばエレベーターガールの人が可愛かったです。

2日目。花蓮という場所に観光。まさか台湾内で飛行機に乗るとは思ってもみなかった。けど日程表にはちゃんと書いてあった。タロコ峡谷という所を見学に行ったがとても素敵な場所でした。絶壁に囲まれた間を流れる真っ青な川。とても幻想的で素敵でした。あとはもっと涼しくて湿度が低ければGOODだったなーと。

3日目。自由行動の日。とは言っても台湾だから出来るということも思いつかず。アニメイトはもはや日本と大差ない感じでした。三越やら電気屋やら回りましたが台湾関係ないよね。夜に夜市という大規模な屋台村に行きました。ここへ来て台湾を実感。コピー商品に引っかけからなかったのが残念でした(笑)。

4日目最終日。忠烈祠の交代式というものを見ました。



M14がカッコ良かったです。それから中正紀念堂という場所でグリコをしたり龍山寺という寺の見学をしました。

帰りの空港で迷子になったり一人台湾に置いて帰りかけたりしましたが問題なく日本に戻ってこれで一安心。

初めての海外旅行が研修旅行という形だったのはとても良かったと思います。やはり食事は日本で

したが、海外に短期滞在というのも新鮮味がありました。もう一日くらい欲しいなと感じましたが、これくらいの気の持ちようで終えられたくらいが丁度良かったのではと思います。

台湾研修旅行

環境都市工学科4年 太田 悠紀



私たち環境都市工学科は、10月10日～13日の日程で台湾研修旅行に行ってきました。

台湾に着いてまず始めに向かったのが、台北101でした。高さは509.2mあり、展望台のある89階まで37秒で到達できるエレベーターに乗りました。

この日の夕食は台湾料理を味わいました。様々な料理が出てきましたが、その多くが好みの分かれる味でした。(笑)



2日目は、バスに乗って台湾の自然と文化にふれることができました。台湾女性が綺麗すぎてびっくりでした。



3日目は、それぞれが行きたい場所に地下鉄を利用しての自由行動でした。私は「台湾の渋谷」と呼ばれる「西門町」に向かい、服やグッズなど買い物を楽しみました。マッサージ店で、私だけ担当が♂だったのは秘密です。(泣)

最終日は、台湾の歴史的な建造物巡りをしました。そこで行った「龍山寺」で、引くほど恋愛成就のおまじないをする人がいたのが印象的でした。



体育祭り

学生主事補 佐賀野 健

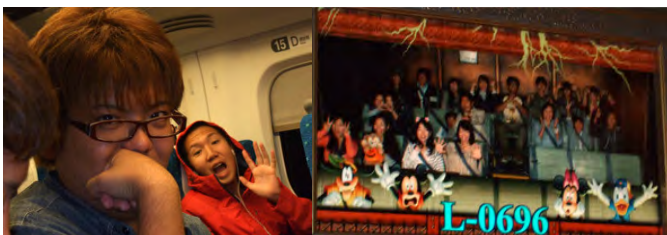
ここに書けないことも含めて、今回の旅行は私たちにかけがいのないものを与えてくれたと思います。

特別見学旅行（東京）

建築学科 4年 堀本貴典 岡田雅志
胡子和輝 中島雅貴

平成23年10月11日から10月14日にかけて東京へ特別見学旅行に行つて来ました。特別見学旅行は、僕たちの高専生活の中でかけがえのないものになりました。

初日は、朝の6時半に安芸阿賀駅集合でした。電車で広島駅に行き、新幹線で東京に向かいました。最初に横浜中華街に行き、昼飯にフカヒレを食べました。おいしかったですが少し高かったです。2日目は、建築現場を見学し、貴重な体験をすることができました。昼は浅草でスカイツリーを見たりしました。3日目は自由行動で、観光したり、ショッピングしたり、ディズニーランドに行ったりと、それぞれがグループになって楽しい時間を過ごしました。4日目は、黒川紀章が設計した国立新美術館を見学し、15時までお土産を買う時間がありました。友達とお土産を買っていると、テレビの取材を受けることになりました。初めてのことで緊張しましたが、とても良い体験でした。16時頃ホテルを出発し、10時頃に安芸阿賀駅に到着しました。この4日間、とても楽しく過ごせました。友達の新たな発見もあったかもしれません。みなさん、お疲れ様です。そして引率の松野先生、佐々木先生、ありがとうございました。



体育祭りが開催されました。今回はクラス対抗競技としてソフトボール、ミニサッカー、バレーボール、バスケットボールを、そして学科対抗競技で、綱引き、長縄跳び、学科対抗リレーを実施しました。また、初めての企画として「バーチャルスポーツ体験」を行いました。それは任天堂のWiiとそのバランスボードを使ってのスキーボードです。クラスから3人が出場し、合計タイムで競いました。写真はその様子です。



午後からは球技種目（ソフトボール、バスケットボール、バレーボール、ミニサッカー）を一時中止し、みんなグラウンドに集合して学科対抗競技スタートです。写真は長縄とびの様子です。



前期の球技大会は雨天により体育館種目しか実施できませんでしたが、今回は全競技を実施することができました。運営にあたりましたクラブ員の皆様と学生会役員の皆様に御礼申し上げます。

第 47 回高専祭を終えて

高専祭実行委員長 黒岩 真平



3年生の冬、僕は高専祭実行委員長になった。高専祭を作り上げていく実行委員長という座に憧れていた僕は、先輩から指名を受けた時、やる気で満ち溢れていた。

学生生活最大のイベントである高専祭を作り上げていく中で、学生一人々々が自分の夢や可能性を見つけられるように——という思いから、テーマは「夢現」となった。

テーマ「夢現」にあわせて、今年は各学生それぞれの夢を書いた写真を使って、大きな一枚絵になるフォトモザイクをつくることになった。初めての企画でノウハウも無いため、各クラスにお願いした写真もどのくらい集まるかと不安に思っていたが、予想していた以上に写真も集まった。高専生らしい面白い写真もたくさんあって、実行委員だけでなく学校全体が高専祭にむけて一体になっているように感じられた。

完成したフォトモザイクを第二体育館に設置し、いよいよ11月5日の高専祭初日を迎えた。朝から大雨だったので、各企画はグラウンドのステージではなく、全て室内で行われることになったが、心配したよりも皆はそれぞれの企画に意欲的にとりくんでくれ、盛り上がりを見せてくれたことに安堵した。

2日目は晴れ。昼から外での企画が可能になり、ビンゴやフィーリングカップル、高専祭名物の「おかまん」がつつがなく進行された。そうしてエンディング。華々しい花火の打ち上げが、流された音楽とうまくフィットしていて、かなり感動的だった。3日目は映画鑑賞、ひき続き後片付けとなった。

今年度の高専祭は、僕にとって忘れられない思い出になった。みんなの力を集め、みんなの夢でもあった今回の高専祭が、思い通りに実現できた。その意味で高専祭の成功は「夢現」そのものになったと思う。

実行委員の皆、また多くのお世話になった方々、どうもありがとうございました。来年の高専祭も素晴らしいものができると思うので、期待をしています。

校内駅伝大会

学生主事補 佐賀野 健

平成24年1月20日に第47回校内駅伝大会が開催されました。前日までの雨や校内の工事で開催が危ぶまれましたが、何とか実施できました。学校から出て、阿賀町内を走って学校に戻る8区間（計13.9km）のコースで、タスキを受け継いでいきます。出場チームはクラスの部20チーム、オープンの部25チーム、そして教員チームの計46チームでした。写真はスタートの様子です。



結果はクラスの部1位：2年電気情報、2位：4年建築、3位：5年電気情報、4位：2年環境、5位：4年機械、6位：1年電気情報、オープンの部1位：走志走愛（陸上部）、2位：ヤマモトナオキング（陸上部）、3位：硬式野球部でした。

大会終了後は、呉高専後援会から「ぜんざい」の差し入れがありました。写真はその様子です。とても美味しかったです。ありがとうございました。



学生相談室の「意味」

学生相談室長 岩城 裕之

皆さんには「ほっとできる場所」はありますか？
家庭であったり、一人で眺める海（という青春はない？）であったり、好きな人と一緒にいられたら「どこでも」ということもあるかもしれませんね。
では、呉高専の中にそんな場所はあるのでしょうか？

「ない」というあなた（実は私もですが）、結構多いのではないのでしょうか。

学生相談室の場所は保健室の隣、静心館にあります。保健室もそうですが、学校の中にあって、ちょっと「学校」とは離れた感覚の場所です。何かもやもやしたことがあった時は、「学校だけど学校ではない場所」が大切なのだと考えています。それが、学生相談室の重要な意味を物語っています。保健室に、ついつい「たまってしまう」という経験があれば、この意味がわかってもらえるでしょうか？（ちなみに、保健室は怪我や病気の場合の「相談室」です）

人は、何かにどっぷり浸かっている時は意外にまわりが見えないものです。ゲームに没頭して時間がたつのを忘れていたり、とても腹が立っていたのに翌日になると「まあいいや」と思えたりするようなことです。

それを悩み事に置き換えてみると、ある時はものすごく大きなことだと思っていたのに、後で考えると何でもないことのように思えることがあります。

こういうのを、客観的にもものを見るというのが、学生相談室はそんな場所をめざしています。

学校の中にあるのに、学校らしくない場所。学校なのに、教員でも事務の人でもない、カウンセラーという人がいる場所。

カウンセラーと言うと、「何だか敷居が高いなあ」と思う人もいるかもしれません。

ただ、話を聞いてもらって、助言してもらうことで悩みが軽くなることもあります。同じような悩み

事を経験している人の話が聞けるかもしれませんし、そこに解決へのヒントが隠れていることもあります。いろいろな話を聞けること、これが、学生相談室のもう一つの意味です。

一方で、カウンセリングなんかで現実が変わるはずもなく、何も解決しないと思うこともあるでしょう。

しかし、学生相談室の本当の意味は、ちょっとトリップすることにあると思っています。一瞬でも今の自分や、学校から離れることで、自分でも気がつかなかった感情や、うまくいけば、あつと驚く解決法が「ひらめく」ことがあるのです。

高専の5年間は、悩みなく過ごす時期ではありません。多かれ少なかれ、壁にぶつかったり、人生が終わってしまうように思ったり、自分がとてもだめな存在や無意味な存在に思えたりする時期です。

ああ無理、と思ったら、一度学生相談室をのぞいてみてください。それでどうなるのかは、結果次第。次のことは、その後で考えてみればいいのです。

軽い気持ちで、隠れ家的な学生相談室へぜひどうぞ。カウンセリングまでは必要ない、でも、一人でぼーっとしたいという皆さんを、応援したいと思います。

平成24年度から学生相談室は「ちょっと変わります」。どう変わるのかは、その目で、確かめてくださいね。



同窓会の現状

呉高専同窓会長 島田 裕己



在校生、卒業生の皆さんこんにちは、昨年の同窓会総会で同窓会長を仰せつかった島田です。前任の杉西会長からバトンタッチされ同窓会長となってから1年があつという

間に過ぎ、まだまだ準備中といったところです。

母校は、昭和39年の創立から50年という節目の年を間近にして少子化や理科離れ等よる厳しい流れの中で入学希望者が減少しているようですが、高専の特色を生かして社会での即戦力となり、グローバルに世界へ目を向けた技術者を育てる機関として益々の発展と飛躍を願うところです。

同窓会も昭和44年3月の第1回卒業式とともに発足し、今年度の卒業式で6千人を超える卒業生を輩出し、さまざまな分野で活躍されています。

同窓会の運営は、会員の入会金と寄付金で運営されています。近年同窓会への入会者数の減少や厳しい社会情勢の中、寄付金の減少もあり資金面も厳しくなっており、何卒会の趣旨をご理解頂き、ひとりでも多くの入会と寄付を改めてよろしくお願い致します。

同窓会も学校との連携をより強めて在校生との交流を活発に行い応援すると同時に、同窓会のネットワークを広げるために、総会だけの会でなく全国に支部を設ける事により情報を共有し活躍の助けとなるような活発な活動の出来る同窓会となるように創立50周年に向けて記念事業の準備と併せて微力ではありますが役員・理事一同活動中です。今後とも同窓会へのご理解・ご協力のほど宜しくお願い致します。

○第46回全国高等専門学校体育大会

期 日 平成23年8月20日(土)～9月4日(日)

会 場 関東北陸地区高専
およびその周辺の競技会場

成 績

陸上競技

(男子)	200M	予選敗退	A 3	浦邊 裕樹
	オープン 200M	8位	E 4	寶來 駿介
	400M	予選敗退	A 3	浦邊 裕樹
	800M	予選敗退	E 4	殿島 唯史
	オープン 1500M	7位	E 5	松本 涼
		11位	M 5	岡部 寛基
		14位	C 4	小谷 拓弥
	5000M	21位	M 4	荒瀬 健太
	110MH	予選敗退	C 5	上坂 晃弘
	走高跳	12位	M 2	中村 和真
	やり投	決勝敗退	E 4	山田 修司
	4×400MR	予選敗退		

柔 道

(男子)	団体	予選敗退		
	73 kg級	3位	A 5	泉本 裕大
	90 kg級	予選敗退	M 4	小林 達哉
(女子)	63 kg級	3位	C 2	多田紀美花

剣 道

(男子)	団体	3位		
	個人	8位	M 4	佐藤 将吾
		2回戦敗退	M 5	廣瀬 昌司

ソフトテニス

(男子)	団体	2回戦敗退		
	ダブルス	8位	M 3	向田 直樹
			A 4	二鹿 潤一

○第20回西日本地区高等専門学校
アーチェリー競技会

期 日 平成23年8月23日(火)～24日(水)
会 場 しあわせの村アーチェリー場
主 管 神戸市立工業高等専門学校
成 績 (男子) 団体 優勝

○全国高等専門学校
第22回プログラミングコンテスト

期 日 平成23年12月22日(木)～23日(金)
会 場 舞鶴市総合文化会館
主管校 舞鶴工業高等専門学校
成 績 賞に該当なし(競技部門参加)
E3 平井 勇大、E3 山本 和空、
E3 山根 裕一郎

○アイデア対決・
全国高等専門学校ロボットコンテスト
2011中国地区大会

期 日 平成23年10月16日(日)
場 所 俵田翁記念体育館
成 績 Aチーム「Vamge 1」 1回戦敗退
Bチーム「Zwei Kanonen」 2回戦敗退

○第47回中国地区高等専門学校
体育大会(冬季大会)

期 日 平成23年11月12日(土)～13日(日)
会 場 岡山県美作ラグビー・サッカー場
主管校 津山工業高等専門学校
種 目 ラグビーフットボール
成 績 Aパート 2位

○第27回中国地区高等専門学校
英語弁論大会

期 日 平成23年11月4日(金)～5日(土)
会 場 COCOLAND(ココランド) 山口・宇部
主管校 宇部工業高等専門学校
成 績

スピーチの部

A5 石本 真帆(1位)

E4 田森 雅樹

暗唱の部

A2 寺嶋 富美子、M2 廣本 優貴

○全国高等専門学校
デザインコンペティション2011
in 北海道

期 日 平成23年11月12日(土)～13日(日)
会 場 釧路市観光国際交流センター
主管校 釧路工業高等専門学校
成 績

環境デザイン部門 審査員特別賞

「練家～瀬戸内にてたてるセルフビルドハウス～」

A5 泉本 裕大、A5 福原 由佳、

A5 臼井 敦美

空間デザイン部門 優秀賞

「島・こらぼ ～過疎の島と高専生～」

A5 泉本 裕大、A5 福原 由佳、

A5 臼井 敦美

ものづくり部門 優秀賞

「TonguE Box」

A5 泉本 裕大、A5 臼井 敦美、

A5 福原 由佳、A5 小林香菜

「バックリコーダー・カレンボーン

小型ティンパニ・バックフルート」

A3 麻村 晶子、A3 池本 倫也、

A3 八塚 未夢、A3 山田 萌子

震災義援金委託のご報告

高専祭の模擬店収益、売店設置の募金箱及び高専祭期間中の募金活動でお寄せいただいた146,374円は11月22日に国際NGOの呉YWCAに震災義援金として委託しましたのでご報告いたします。(11月22日付け「呉高専日誌」に掲載していますのでご覧ください。)

東日本大震災により被災された方々に対する平素からの温かいご支援、心から感謝いたします。

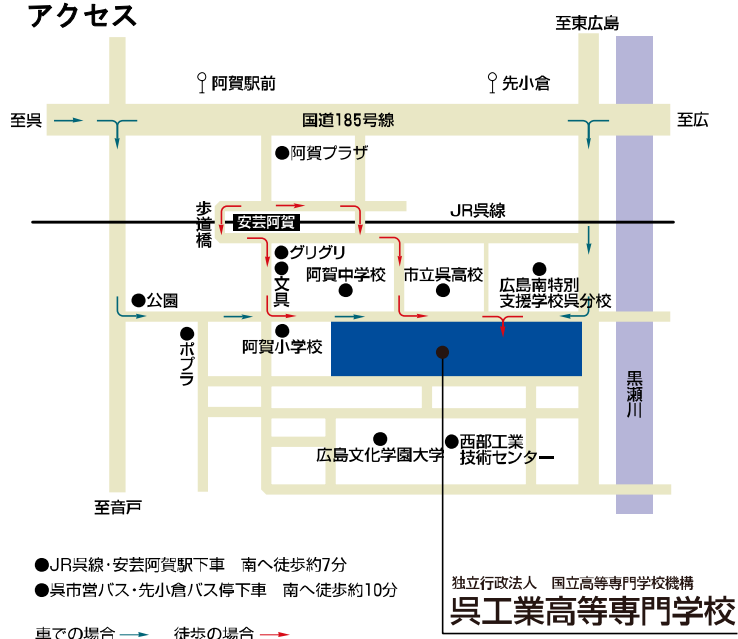
呉高専学生会とインターアクトクラブでは、これからも引き続き、被災された方々への支援活動を行ってまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

(呉高専学生会、インターアクトクラブ)

呉高専日誌

呉高専ではホームページで「球技大会」、「高専祭」、「駅伝大会」、「高専体育大会」、「ロボコン大会」等校内外の行事や「授業風景」、「寮の様子」、「クラブ活動」など日々の学生生活を日誌風に紹介しています。 <http://www.kure-nct.ac.jp/>

アクセス



編集・発行

呉工業高等専門学校 広報室

〒737-8506 呉市阿賀南2丁目2-11

TEL 0823-73-8964 E-mail kouhou@kure-nct.ac.jp